

お釈迦さまの十大弟子 あなんそんじゃ 阿難尊者

平成24年5月第2週放送

本日は、お釈迦さまの十人のすぐれた弟子の一人である、あなんそんじゃ 阿難尊者についてのお話です。

あなん 阿難尊者は、「たもんだいいち 多聞第一」と言われます。お釈迦さまの教えを一番多く聞いた弟子として、十大弟子の一人にかぞえられ、今なお多くの信仰と尊敬を集めています。なぜなら、阿難なくして、今の私たちがお釈迦さまの教えに触れることができなかつたと言ってもかごん 過言ではないからです。

阿難は、お釈迦さまの布教の旅の途中から、まさに亡くなるその瞬間まで、約二十五年の長きにわたり、お釈迦さまの身の回りの世話をしながら共に旅を続けました。

いつもお釈迦さまのそばにいるわけですから、自然とお釈迦さまの教えを誰よりも多く聞くことができたのです。そして時には、自らお釈迦さまへ質問をして、教えを乞うこともありました。阿難の質問によって、より多くのお釈迦さまの教えが示されたのです。

お釈迦さまが亡くなったあと、お釈迦さまの教えを整理するために、五百人の特にすぐれた弟子たちが集められ、「けつじゅう 結集」と呼ばれる会議が開催され、そこに阿難も呼ばれました。「けつじゅう 結集」の席では、お釈迦さまの教えを誰よりも多く聞いていただけでなく、その教えを正確に記憶していた阿難を中心に会議が進められたといわれています。

この「結集」により、お釈迦さまの教えが整理され、のち 後に「きょうてん 経典」となりました。現在まで世界中の多くの人々が、お釈迦さまの多くの教えに触れることができるのは阿難の功績であり、「ゆえん 多聞第一」と言われた所以なのです。

お釈迦さまは亡くなる直前に、長年身の回りの世話をしてくれた阿難に対して、ねぎらいの言葉をかけました。

「阿難よ、そなたは長い間、本当によく私に仕えてくれた。そなたのふるま 振舞いは、いつもじあい 慈愛にみちていた。そなたの言葉も、いつもいつく 慈しみにあふれていた。また、そなたの心も、いつも愛情にあふれていた。それがわたしにはよくわかった。阿難よ。そなたは立派であった。」

お釈迦さまに誠心誠意尽くした阿難の人間性も、十大弟子として崇められた理由のひとつかもしれません。私たちも、家族に接する時や、社会で出会う多くの人々と接するとき、阿難のように慈愛に満ちた触れ合いができれば、素晴らしい世の中になることでしょう。

— 終 —